

課題制作の前に

- ① 課題を制作／提出する前に必ずこの「手引き」を読んでその指示に従って下さい。制作／提出に際しては、この「手引き」に記載されている条件を満たすことが必要です。
- ② 提出物は「制作指示書」と「作品」の2つです。いずれにも必ず受験番号／氏名／選択課題名（ABCの別）を明記して下さい。作品に記入するときは印刷仕上りサイズの外側に明示して下さい。これらの記入がないと不合格になることがあります。
- ③ 「制作指示書」「作品」ともPDFデータをアップロードして提出して下さい。CDやMOなどを提出しても審査の対象にはなりません。また提出されたCDやMOなどは返却しません。
- ④ 「作品」はPDF/X-1aのデータで提出して下さい。

I-1 課題の概要

I-1-1 出題の趣旨

課題制作の「制作指示書」と「作品」は、オペレーション能力やデザインセンスだけでなく、DTP制作を指導、管理するにふさわしい能力を審査するのが目的です。そのような能力には次の3つの側面が考えられます。

- ① **デザイン（設計と指定）、製版／印刷への配慮**
印刷物の紙面を設計し、また紙面の全要素について製版／印刷工程の特性を考慮に入れた的確かつ詳細な設定および指定の指示を行う能力。
 - ② **DTPシステムの理解**
DTPのシステムおよびハードウェアとソフトウェアなどの環境設定をよく理解して、効率的かつ合理的に指示を行う能力。
 - ③ **ワークフローと段取り**
複数の人間、あるいは工程の間を仕事がスムーズに流れる段取りとわかりやすい指示を行う能力。
- 以上を統合した観点から提出物（制作指示書、作品）を採点して合否を判断します。統合的／システム的な作業を前提としているのでコンピュータを使った作業が原則です。「制作指示書」と「作品」の制作上で不明な点や判断に迷う事は、受験者自身で考え第三者が制作する上で困らないよう指示する事が必要です。これもDTPエキスパートとして求められる能力です。

I-1-2 「制作指示書」の制作条件

- ① この「手引き」でいう「制作指示書」とは、受験者が指示を与える立場に立って、「受験者が制作した方法を、第三者が継承して制作するために必要な各種設定や制作手法、制作工程、注意事項などを記したもの」の事です。単なる「操作手順書」のことではありません。
- ② 「制作指示書」の目的は、誰が作業をしても一定レベルの品質を保ち、かつ効率よく制作できるような設計（作業計画や段取り）に基づいた制作工程や詳細設定を正確にわかりやすく伝えることです。した

がって、「制作指示書」は提出した作品のみの制作指示ではなく、改訂版、あるいはシリーズ物などを前提もしくは想定して、他の同様の印刷物を制作する際に必要な指示を記述する必要があります。

- ③ 「制作指示書」の内容は以下の項目を「目次」として表紙に記述し、下記数字の順番で「制作指示書」の内容を作成して下さい。さらに受験番号、氏名、課題の種別も記述してください。

注）課題Cの「制作指示書」の目次項目は、下記に準じて下さい。

- 1 制作上の留意点（制作意図、標準化と効率化の工夫、原稿量の増減に対応するレイアウトの維持など）
- 2 受注内容（受注先、制作物、仕様、納品形態など）
- 3 制作環境（ハードウェア、ソフトウェア、環境設定、ファイルの授受など）
- 4 制作手順（スケジュール、全体のワークフローと画像処理のワークフロー、分業など）
- 5 標準化と効率化（再利用可能なテンプレートなど）
- 6 紙面設計（シリーズ物としてのレイアウトを継承しテキストの増減に対応した設計図、統一事項、自由裁量など）
- 7 パーツの詳細指定（第三者が他の都市を作成するために必要なパーツの指定など）

注）制作手順の画像処理のワークフローには、倍率変更、解像度変更、プロファイル管理、USM等を指示して下さい。この記述が無ければ不合格なる場合があります。

・紙面設計において設計図がない場合は不合格になります。設計図はシリーズを通して具体的に配置できる再現性が求められます。

I-2 採点基準

「制作指示書」は、

- ① **設計**：制作上の留意点、制作環境、制作手順、紙面設計、標準化と効率化など。
- ② **要素**：受注内容、パーツの詳細指定など。
- ③ **表現**：制作指示書の構成、可読性／正確さ、指定用語の使い方など。

「作品」は、

- ① **レイアウト**：配置、バランス、製版／印刷適性など。
- ② **文字／組版**：書体（サイズや種類）、組版、表組、文字校正、文書構造の表現など。
- ③ **画像／色**：写真や図版の処理、彩色、配色など。

上記項目が採点の基準となりますので、この項目が訴求できるような表現・表記をすることが求められる作品の基準になります。

- ・「制作指示書」や「作品」は、制作及び提出条件の内容に合致していることが採点基準の前提となります。
- ・課題Cの採点基準は課題ABと同様ですが、採点の比重は、「制作手順書」が高くなります。
- ・他の受験者（過去の受験者も含む）の提出物の不正複製と判断した場合は、複製者だけでなくオリジナル制作者もともにすべて無条件で不合格となります。画像や組版などパーツを流用してほとんど手を加え

ていない場合や、基本レイアウトの流用とみなされる場合も不正複製と判断します。

- ・過去の受験時に提出したものと同一制作物を提出することはできません。過去データの一部（「制作指示書」「作品」とともに）を使用している場合も不合格になります。課題は、必ずこの39期の「手引き」に従い、受験者自身が実際に関わったデータを使って制作します。これらを使用していない場合は、条件違反で不合格になります。
- ・「制作指示書」と「作品」の整合性がとれない場合は減点あるいは不合格の対象となります。
- ・仕上がった作品のキャプチャ（画面コピーや作品そのもの）を設計図やレイアウト指定に使用してはいけません。本来の設計及び指定の順序と異なるため設計がされていないとみなし不合格になります。
- ・デザイン技能を採点する試験ではありませんが、一般的な印刷物として不適切なデザインや手法は減点あるいは不合格の対象となります。
- ・課題の採点は筆記試験の採点とは関係なく行い、課題が不合格の場合は筆記試験の結果にかかわらず不合格となります。また、課題の提出がなければ不合格です。
- ・「作品」はPDF/X-1aの形式に適合していなければ、減点あるいは不合格の対象となります。

I-3 提出要項

I-3-1 提出の条件

- ①「制作指示書」と「作品」の2つを同時に提出して下さい。
- ②「制作指示書」と「作品」のそれぞれに**受験番号・氏名・課題名（ABCの別）**を明記して下さい。
- ③締め切り日厳守。「I-3-3 締め切りと提出先」を参照。

注）すべての提出物は合否にかかわらず返却しません。

I-3-2 提出物

- (1)「制作指示書」
 - ①A4縦のサイズでPDFで提出して下さい。
 - ②「制作指示書」の本文は、A4サイズで5ページ～10ページ程度を目安にして下さい。
- (2)「作品」（カラーまたはモノクロの出力物）
 - ①**仕上がりサイズにトンボを付けてPDF/X-1aのデータ**で提出して下さい。
 - ②「作品」の仕様は各課題の条件や想定によって異なりますが、受験者自身が作ったものであること、入稿データとして必要な要素が含まれていることが条件です。
- (3)「その他」
 - ①いったん提出した「制作指示書」／「作品」の差し換えや追加などは認められません。よく確認してから提出して下さい。

I-3-3 締め切りと提出先

- (1) **締め切り：2013年4月15日（月）**
13：00（サーバのクローズ時間）

(2) アップロード提出先：

<https://www.jagatexp.info/dtp/>

注）最終日は混み合いますので早めにアップロードして下さい。

- ・課題制作に関するお問合せについては、課題材料がダウンロード不能の場合、およびデータファイルの不良を除き、課題制作に関するお問い合わせには応じられませんのでご了承ください。

I-3-4 提出方法

- ①詳細についてはJAGAT DTP エキスパートのWebサイトで確認して下さい。

<http://www.jagat.jp/dtp>

I-3-5 提出物の取り扱いについて

- ・提出された作品については、この認証試験の採点の対象以外の目的には使用しません。
- ・作品の提出にあたっては、受験者の方の責任の範疇内でお願いいたします。

II-1 データの概要

II-1-1 データの確認

- ①この「手引き」と「課題データ」は課題別（ABC）になっています。選択した課題（必要があればプリントして下さい。）の条件に従って下さい。
- ②**課題Cの自由課題のデータは受験者自身で用意できるものを使って下さい。課題A、Bのデータ（過去のものも含む）を自由課題に使うことはできません。**

Ⅱ－２ 課題Ｃ「自由課題」

Ⅱ－２－１ 課題Ｃの「作品」の制作条件

自由課題は自由に作って提出してよいという意味ではなく、実際に仕事で作って印刷物となった作品を提出するという意味です。架空の作品は原則として受け付けません。やむを得ず架空の作品を提出する場合でも、実際に印刷物として通用するレベルに達していることが要請されます。自由課題は以下の要件を満たしていなければなりません。

- ① 相応量の文字組と３点以上の写真／図版を組み込み、切り貼りなしに仕上げてあること。
文字組版がほとんどなかったり、写真／図版が１～２点しかないなど要素が偏っている場合は採点の対象にはなりません。
- ② 試験実施日を起点として過去６か月以内に**実際に仕事として制作したもの**、または今回の提出用に新たに制作したもので、「制作指示書」と「作品」の両方を提出すること。
- ③ 配布された課題Ａ、Ｂのデータ（過去のものも含む）を使って制作した作品を自由課題として提出することはできません。

Ⅱ－２－２ 課題Ｃの提出物

課題Ｃの提出物は、「制作指示書」と「作品」の２つです。これらは以下の条件を満たしていなければなりません。

Ⅱ－２－３ 課題Ｃの「制作指示書」の提出条件

「制作指示書」は（Ⅰ－１－２「制作指示書」の制作条件）とあわせて、以下の条件に従って下さい。

- ① 「制作指示書」は A4 縦のサイズで PDF で提出して下さい。
- ② 作品制作についてのコンセプトをつけて下さい。とくに課題Ｃの自由課題は課題Ａ、Ｂとは異なり、採点者には作品の前提がわかりません。作品自体の特徴や工夫点だけでなく、そもそもどういうクライアントのどういう作品なのかがわかるようにして下さい。実際の仕事でない場合も自分が想定した要件を記述して下さい。
コンセプトは 400 字～1000 字程度で「制作指示書」の冒頭につけて下さい。書式は問いません。実際に作った作品でコンセプトに相当するものがあればそれでも構いません。
- ③ 実際の仕事上に「制作指示書」に相当するものがない場合は、第三者に制作させるための指示が必要です。実際の仕事で制作指示書に相当するものを使っていればそれを提出しても構いません。ただし制作指示書の内容は、Ⅰ－１－２「制作指示書」の制作条件に準じて制作して下さい。
- ④ 自由課題でも「制作指示書」のポイントは標準化と効率化です。

Ⅱ－２－４ 課題Ｃの「作品」の提出条件

- ① 「作品」は**仕上がりサイズにトンボを付けて（製版サイズ、裁ち落とし 3mm）PDF/X-1a の形式に適合**

したデータで提出して下さい。

- ② 提出物には入稿データとして必要な要素が含まれていなければなりません。

Ⅱ－２－５ 課題Ｃの採点

自由課題の採点は他の課題と同様の基準を適用します。基準に沿って加点／減点する項目と、合否判定委員会で審査する項目があります（「Ⅰ－２ 採点基準」）。

とくに課題Ｃについては、

- ① **制作コンセプト**：どういう仕事なのか、何をポイントに制作したか、また仕事の進め方（段取りや作業計画など）を明記しているか。
- ② **デザイン**：レイアウト設計の考え方や方法、パーツのバランスなどが適切かどうか。
デザインそのものの優劣は問いません。
- ③ **文字組版**：書体の選択や組版が常識に外れていないか。
- ④ **画像処理**：写真やイラストなどの処理が適正に行われているか。
- ⑤ **製版／印刷適性**：製版／印刷を意識した「制作指示書」「作品」になっているか。
- ⑥ **制作指示書**：実作業の指示として使えるレベルに整っているか。

などについて審査します。これらの基準を満たしていない提出物、または不完全で判断できない提出物は不合格の対象になります。また、「制作指示書」が、第三者に制作させるための設計書としての水準に満たないもの（メモ書き程度のものや自分の作成記録でしかないもの、判読不能なものなど）は作品自体の出来がよくても不合格になることがあります。